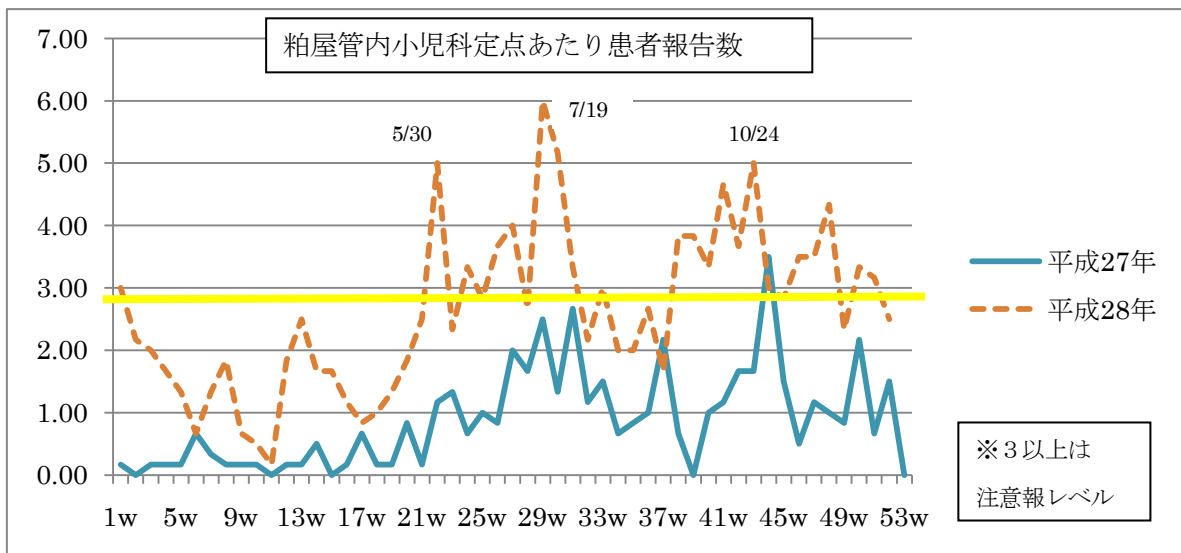


## 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の流行について(情報提供)

平成28年5月頃から平成29年にかけて、粕屋管内の小児科定点における患者報告数が、1定点あたりの基準値を超えることが多くなっており、流行が続いています。平成28年の小児科定点報告によると、粕屋管内の患者の年齢は、3～5歳をピークとして6歳までで約7割を占めていますが、成人の患者も発生しています。流行性耳下腺炎は、4～5年ごとに流行を繰り返しており、現在流行の時期にあると考えられます。



- 耳下腺炎(おたふくかぜ)は、ムンプスウイルスの感染により、2～3週間の潜伏期を経て耳下腺が炎症を起こす感染症です。
- 流行性耳下腺炎の合併症には、髄膜炎・難聴・精巣炎などがあり、重篤な後遺症を残すことがあります。
- 効果的な予防方法としてワクチンの接種がありますが、任意接種となります。ワクチン接種については、かかりつけ医に相談してください。